

第30号

発行日
2021. 3. 31

Super Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

バス関東第6号「2021年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」 職場の怒りや切実な声を最後まで訴え、苦渋の判断であるが本日 **妥結** する

3月29日に示された内容は「ベアゼロ」に留まらず、2/4での定期昇給実施という、会社発足以来初の定期昇給にまで踏み込んだ回答でした。

バス関東本部として、組合員の「労働実感」「生活実感」コロナ禍で高まった労働力を踏まえた要求からはかけ離れた回答であるため、席上妥結せず回答を持ち帰り、緊急代表者会議や分会との議論を本日まで行ってきました。そして、組合員の怒りや悔しい想いを受け止め、組織現実・経営状況・春闘情勢などの現実を踏まえ、組合員の雇用と利益を守り、家族を守るために今後どうすべきか喧々諤々の議論の上、苦渋の判断でありましたが本日妥結しました。

JR東労組バス関東本部21春闘を最後まで支えていただいた、全組合員と家族の皆さんに感謝申し上げます！

多くの激励
ありがとうございました！



JRバス関東もJR東日本会社同様に厳しい経営状況となり、通期見通しで会社発足以来最も厳しい赤字決算を見込んでいる現実を受け止めなければなりません。しかし、本体と同様に、ベアゼロ、定期昇給は半分での実施との回答内容に対し、職場の組合員からは「親会社そのままの乾いた回答だ」「バスの組合員の切実な現実を親身になって考えていない」など当然、怒りの声があげられました。その多くの理由は、本体とバスの労働実感・生活実感の違いや、賃金水準、賃金制度、定昇額などが違うにも関わらず、本体と同様と言える回答であるからです！

その怒りと危機感から、第3回の交渉の席ではJRバス関東の独自性・独立性が極めて薄いと指摘してきましたが、今後更に独自性・独立性が薄くなっていくのではと危惧しています。

何故なら、これまでバス関東は負債を抱えず経営をしてきましたが、来年度初には資金繰りに着手していくとしています。一般的に考えれば、CMS※を活用して、本体から借りるという事だと考えられます。そうなれば更に、JRバス関東の独自性・独立性が薄くなり、バス職場の現実や組合員の現実、切実な声が反映されなくなっていく危機感を覚えます。従って、**職場の力でバス職場と組合員の現実や課題を把握し、具体的に会社に提起し、問題の解決や改善等を求める闘いを強化しなければなりません。**

※キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)は、企業グループ全体の資金の状況を可視化し、資金の無駄遣いの防止や、資金の不足、不正など、資金に関わる様々なリスクに対応するための管理システムである。CMSを活用することにより、親会社は、企業グループ全体の資金を一元的に管理することが可能になり、資金効率の向上や内部統制の強化を図ることができる。

従って今後は、職場討議資料などを活用した議論で、**自らの要求へと高めてきた事を教訓とし、組織を強化していくこと。そして、水戸地本、東京地本などでの組合加入を教訓とし、更なる組織の拡大が重要です！**その実現により組合員の労働条件・環境の維持・向上を実現しようではありませんか！

私たちはこの怒りと悔しさを忘れない！怒りと悔しさと危機感をバネに次なる闘いをつくり出そう！
バス東北本部の妥結までJR東労組春闘として闘い抜こう！